

【足立敏之議員】建設産業再生へ量と質の確保を／国政セミナーで講演



タブレットを手に国政報告を行う足立議員

足立敏之参议院議員の国政セミナーが24日に都内で開かれ、「ウィズコロナ時代の新たな国土づくり」と題した国政報告を行うとともに、引き続き災害に強い地域づくりと建設産業の充実・再生に取り組むことを誓った。特に建設産業再生のために、「量の確保」として公共事業予算の計画的確保を訴え、「質の確保」として品確法等に基づく施策の着実な実施が重要との見解を示した。

足立議員は「日本は本当に脆弱な国になっていると思う」と述べ、近年頻発する水害・土砂災害を振り返りながら「災害の激しさはエスカレートし、広域化・激甚化している。地球温暖化の脅威はますます高まってくると言える」と説明。必要とされるのは事前の防災対策であり「災害が来る前に、あらかじめ対策を講じて災害に備えることが大事だ」と強調した。

また、海外と比較して日本のインフラ整備は遅れており、貧弱であることを示した上で、今後もインフラ整備を進めつつ、老朽化対策も進めなければならないことから、必要とされる公共投資の実施が重要になるとした。

建設業の役割としては▽インフラ整備の担い手▽道路・河川などの維持管理の担い手▽防災の担い手、災害復旧・復興の担い手▽地方創生の担い手—を挙げ、さらなる環境整備を図る姿勢を見せたほか、「ICTやデジタル化などの取り組みを進めて、未来に向けた産業に大きく変わってほしい」と期待を寄せ、「これからも建設産業の再生のために全力で頑張る」と決意を新たに示した。